



アグリキッズ 育成プロジェクト

～鹿屋農業青年クラブ～

鹿 屋農業青年クラブは、情報交換や親睦を図ることを目的に、鹿屋市内で農業に従事する青年が集まり、活動している団体です。

これまでは、自分たちの研修を中心に活動を行ってきましたが、現在は、生産者の立場から子どもたちに食と農について伝えていこうと「アグリキッズ育成プロジェクト」を実施しています。



今年度は、野里保育園とエンゼル保育園の園児たちと野菜を育てたり、より多くの子どもたちに食の大切さを伝えるため、「食育レンジャー」を結成し、11月27日、鹿屋市農業まつりで、食育レンジャーショーを行いました。

ショーでは、シナリオから小道具まで自分たちで作りし、食の大切さを子どもたちに訴えました。

今後は、乳牛を連れて行って乳搾りを体験する「出前乳搾り体験」や、機会があれば、食育レンジャーショーを実施する予定です。

かのや食育サポーター

かのや食育サポーター を派遣します

「食の大切さについて話を聞きたい」「調理実習の講師を探している」「農業体験をしてみたい」など、食と農の交流に関する活動を行う時に、ぜひ、ご活用ください。

また、サポーターへの謝金や料理教室の食材費、農業体験の種苗費など、鹿屋市からの支援もあります。

●対象者＝保育園、幼稚園、学校、町内会、PTAなど、食育や地産地消活動に取り組む団体など

●申込方法＝農政水産課へ直接お申し込みください。



か のや食育サポーターによるはじめての食育研修会が、11月12日、串良町の洗心保育園で行われました。

日ごろ、料理をする機会の少ない父親に料理をマスターしてもらいたいと食育サポーターに派遣要請があったものです。

かのや食育サポーターが、栄養バランスや朝食の大切さなどの食育の基本について講話したあと、実際に魚のさばき方など料理実習を行いました。参加者は、「家でも作ってみたい」などと料理に自信を持ったようでした。

シリーズ「食」と「農」の交流づくり⑧

食育・地産地消 活動のすすめ



市では、子どもたちに食と農について正しい知識を持ってもらいたい、また、食することで本当の喜びを知ってもらいたい、大人にも改めて食と農に関心を持って生活をしてもらいたいと、様々な人が、様々な形で接することができるように食育・地産地消の活動を行っています。そんな活動の一部を紹介します。

【問い合わせ】 市農政水産課 ☎ 0994-31-1117

さつまいも給食の実施



か ごしあ版食事バランスガイドでは、主食にご飯や食パンなどと並んでさつまいもが表記されています。これは、さつまいもが特産品である鹿児島県ならではのものです。また、鹿屋市は全国有数のさつまいもの産地です。

しかしながら、さつまいもはこれまで学校給食の食材として味噌汁等の具材には使われてきましたが、生のさつまいもを焼く・蒸すなどして主食として登場したことはありませんでした。

そこで、南部学校給食センターでは、12月にさつまいもを主食にした給食を実施しました。

この取組は、鹿屋市が推奨している「紅はるか」の蒸し芋を一本ずつ主食として提



供したもので、子どもたちは「甘くておいしい」と笑顔で食べていました。

学校給食では、「いただきます」などのあいさつの習慣やお箸の持ち方など食事のマナーを伝えたり、郷土料理や行事食をメニューに取り入れることで食文化の伝承に努めるなど総合的に食育を実践しています。また、毎月19日の「かのや食育の日」を中心に、地場産品を使った地産地消メニューの提供に取り組んでいます。

食育にできることから 取り組んでみましょう

鹿屋市役所農政水産課
主任主事 下山加奈子

「食」は、私たちが生きていくうえで、最も欠かすことのできないものです。正しい「食」は体を健康に保つだけでなく、心も豊かにします。心身ともに健康に暮らしていくためには、正しい「食」を選ぶ力を身につけることが大切です。

鹿屋市は、豊かな自然に恵まれた「食の宝庫」です。山、海、田、畑で、これほど多くの農林水産物や畜産物が生産されている地域は全国でもあまりありません。たくさんの方に恵まれました。鹿屋市だからこそ、「農」を身近に感じ、「食」の大切さや「農」に対する感謝の気持ちなどを育むことができます。

現在、市内の様々な団体が、生産者・消費者・教育・福祉など、それぞれの立場を生かして食育・地産地消に取り組んでいます。皆さんも、生き生きと幸せに暮らしていくために、「食」とそれを育む「農」を見つめ直してみませんか。